

平成23年度 事業評価（事業活動記録）

事業No. 696

政策体系	13	事業分類	ソフト事業	所管部局	教育委員会 社会教育課
会計	一般会計	科目	10. 教育費 - 5. 社会教 - 1. 社会教 現年		
事業名	青少年活動事業				
細事業名	わくわくわんぱく交流ふれあい事業				
				評価表作成者	教育委員会 社会教育課 川勝 建太郎

1. 事業の概要

市内在住の児童(障がいのある児童を含む)に対し、休日や長期休暇中に、広く地域の人たちや他の子どもたちと交流する中で、様々な体験ができる機会を提供する。

2. 事業の目的と必要性

① 施策で目指す目標との関連付け

自然体験活動を通じて青少年の健全育成と障がいに対する理解を深める事業。
休日や長期休暇時期において季節等に応じた体験活動を年10日程度実施する。

② 事業を実施する必要性

児童が協調性や連帯感を高め、自己の価値を見出すことが必要とされていることから、次のことを重点として取り組む。
(1) 豊かな環境の中で様々な体験活動を通して感性を育み、ものごとを深く見つめる力を培う。
(2) あらゆる機会での「対話」を重視し、出会いや交流を通じて自己の良さや価値を見出し、自尊心を高める。
(3) 障がいのある児童と共に活動をするを大切にしながら、協調性や連帯感、思いやりや人権意識を育む。

3. 事業費の推移

	単位	平19決算	平20決算	平21決算	平22決算	平23予算	平24計画	平25計画
決算額または計画額	千円	887	948	580	580	359	400	400
うち一般職・嘱託職・臨時職の給与および共済費等	千円	0	0	0	0	0	0	0
財源内訳	使用料・手数料等	千円	0	0	90	63	90	60
	国・府支出金	千円	850	818	487	335	0	0
	地方債	千円	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	37	130	3	182	269	340
職員等の従事人員	人/年	—	0.57	0.42	0.42			
人件費	千円	—	4,004	2,527	2,551			
事業費総額	千円	—	4,952	3,107	3,131			

※事業費を要しない場合は「0」、事業を実施しない場合は「空白」で表示。
※千円未満を四捨五入し表示しているため、合計等が一致しない場合がある。

4. 主な事業費の内訳

報償費 120,000円 (講師謝礼、ボランティア謝礼)
需用費 160,451円 (消耗品、活動冊子印刷費)
使用料及び賃借料 253,045円 (バス借上料他)

5. 事業結果の概要

- ・対象：市内小学5～6年生の児童、市内在住の障害のある児童 計48人
- ・実施事業：調理体験、マリンスポーツ、水の路探検、サマー合宿、稲刈り体験等

6. 活動の詳細

7. 所属長評価〔平成20年度から改善した点、今後の展開など〕

・参加児童の安全管理について議論し、事業実施できた。
・障がいのある児童とともに体験活動を実施することにより、参加者はもちろんのことボランティアを含め協調性、連帯感を高めることができた。
・参加者比率では園部管内の小学生が高く、今後は他地域からの参加者比率を高めることにより、さらなる交流を深める必要がある。

【参考】過年度の評価

■平成22年度の所属長評価

・参加児童の安全管理について議論し、事業実施できた。
・障がいのある児童とともに体験活動を実施することにより、参加者はもちろんのことボランティアを含め自己有用感や協調性、連帯感を高めることができた。
・参加者比率では園部管内の小学生が高いため、他地域からの参加者比率を高めることにより、さらなる交流を深める必要がある。
・京都府の委託事業として実施しているが、22年度末で委託事業が廃止されることから、財源確保を検討する必要がある。

■平成21年度の所属長評価

①事業執行にあたり議論を重ねた点
参加児童の安全管理について議論した。
②当該事業のアピール事項
障がいのある児童とともに体験活動を実施することにより、参加者はもちろんのことボランティアを含め自己有用感や協調性、連帯感を高めることができた。
③反省点、今後の展開・方向性等
参加者比率では園部管内の小学生が高いため、他地域からの参加者比率を高めることにより、さらなる交流を深める必要がある。